

# 沖縄平和学習会に参加して（7月号の続き）

大阪市職港区役所支部

ガマでの集団自決

沖縄本島中南部は、ほ

とんどが隆起サンゴ礁で出来ており、雨の浸食によってできた自然の洞窟（ガマ）がたくさんあります。沖縄戦では、このガマが住民の避難場所となり、日本軍の作戦陣地



や野戦病院として利用されたそうです。

その中のひとつ、南部にある糸数壕（いとかずごう・アブチラガマ）に入らせてもらいました。

ガマの中は想像以上に広く、奥深く続いていました。真っ暗で、懐中電灯を消せば全く何も見えず、時々水滴の音が聞こえるだけです。このガマでもたくさんの遺骨が見つかったそうです。

兵士たちの頭蓋骨は、みな口を開けた状態で見つかったそうです。死ぬ直前まで、天井から滴り

落ちる水滴を求めて口を開けていたからだそうです。住民の居場所は、ガマの出口のすぐ近くでした。

赤ん坊が泣くと、米兵に見つかるから殺せと日本兵に言われた母親は、赤ん坊の顔を自分の乳房に押し付けて窒息死させたそうです。

米兵の指示に従い外に出ようとした人は、日本兵に撃ち殺されたそうです。日本軍は、米兵の捕虜になることを決して許しませんでした。

あるガマでは、米兵に

捕まると強姦されてから殺される、日本軍から聞かされていた女性が、母親に殺してくれとずがりました。

家族での殺し合いが始まり、たくさんのガマで住民の集団自決があったそうです。

沖縄には、今でも見つからないガマが多くあり、たくさんの遺骨が沖縄の地中に埋まっていると言われています。

暗いガマの中で平和ガイドさんの話を聞きながら想像しました。

お互いに想いあつてい

たからこそ、殺しあう。そんな信じられない出来事がほんの七三年前にあつ

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

たんだと思うと、苦しくて、言葉になりませんでした。

米須海岸

旅の最後は、沖縄本島南端にある米須(こめす)海岸に行きました。ここで、多くの住民・兵士の遺体が見つかったそうです。北から攻めてくる米兵から逃げまどい、追いつめられた人々が、最後にたどり着いた場所です。とてもきれいな海と、広く続く静かな海岸が、とても哀しかったです。

平和ガイドさんは、「なぜ沖縄に基地があるのか考えてください」と訴えます。戦争で悲惨な

経験をした沖縄。戦後、アメリカの統治下に置かれ、一九七二年には日本復帰を果たしますが、今もなお、沖縄にはたくさんのお米軍基地があります。「日本には憲法九条があったから、四七年前沖縄は日本復帰した。そして、日本復帰のために闘ってきた人々が、今、辺野古に座っている。

日本復帰は本当によかったのか、そんな思いになる」と平和ガイドさんは話してくれました。

現地で出会った二十代の女性は、「おじい、おばあはみんな、本土の人のことを恨んでいる」と教えてくれました。

その時代に生きた沖縄県民は、日本に見捨てられた、という気持ちが強いのかもしれません。

戦後七三年、日本復帰から四七年、しかし今もなお、基地問題に揺れ動かされる沖縄の人々。なぜ沖縄の人々は、何年もの間悩まされ、闘い続けなければならなかったのか。本土に住む私たちは「沖縄だけの問題」とどこかで思ってしまったのではないのでしょうか。

沖縄基地問題は、日本の安保に関わる問題です。日本人として、行政で働くものとして、その歴史と現状を知り、一緒に考えていかなければなら

いと感じました。これからも平和行動に参加し、学んだことを組合員の皆さんと共有していきたいと思えます。

一緒に沖縄に訪問した南大阪平和人権連帯会議の皆様、平和ガイドさんをはじめ沖縄訪問でたくさんの方を教えてくれた現地の皆様、貴重な体験を本当にありがとうございました。

